



## 病院経営とパリアン (10)

医療法人パリアン理事長  
川越 厚



### 病院長に当たり最初に私が行ったこと(2)

新年おめでとうございます。  
これまでの自分の歩みを振り返ることによって“今”を見つめなおし、“明日”の目標を定める作業を続けてきました。  
2016年の年明けにあたり、「いまを生きる組織体の活動理念と目標を定めることの大切さ」について記したいと思います。

2016年の年明けにあたり、「いまを生きる組織体の活動理念と目標を定めることの大切さ」について記したいと思います。

賛育会病院の経営再建は、この病院自体が歴史的な使命を担った器なので、単純に赤字を黒字に変えればそれで事足りる、という訳にはいきません。

そもそも、賛育会病院がその地に建てられたのは何のためだったのか。そのことを踏まえて、私たちは賛育会病院という器を用いて、いま何をしなければならないのか。その点を明確にし、具体的にやるべきことを職員に指し示す。これが私に与えられた、最初の重要な仕事でした。

#### 賛育会の創立基本理念「隣人愛の実践」

賛育会の創立理念とは“医療を通して”、“キリスト教の隣人愛”を地域で実践することでした。このことは病院再建にあたって、忘れてならない原点ですが、その理解のためには少し説明が必要です。

“キリスト教の隣人愛”とは、言うまでもなく新約聖書の“善いサマリア人のたとえ”で示されたイエスの教え（ルカによる福音書 10 章 25 節～37 節）です。その実践が賛育会の礎に据えられている。私はそのことをしっかり頭に叩き込みました。

ところでこの喩話（たとえばなし）からは、多くの教えをくみ取ることができますが、ここでは、賛育会の創立と関連した内容に限って、この喩（たとえ）の意味を説明したいと思います。

「わたしの隣人とは誰か？」

この問いに、イエスは答えました。

「いま具体的に、困って助けを求めているあなたの隣人（聖書では、追はぎに襲われ半殺しになった旅人。しかも、宗教的に相容れぬ立場の旅人）だ」と。

「その人を自分を愛するように愛しなさい。」

これがイエスの命令でした。

今では想像しにくいことですが、当時、賛育会発祥の地は経済的に貧困家庭が多く、そこでは母児をめぐる衛生環境は極めて悪く、出産によって児だけ

ではなく、母体もしばしば生命を失っていました。賛育会の創設期、こころ熱き東大 YMCA の若者は、墨田区の太平町周辺のこれらの母児に、自分の隣人を見出しました。ここでの愛の実践とは、その人たちに周産期医療を提供することでした。つまり、周産期医療を提供すること自体が隣人愛の実践、まさに賛育会の存在意義となったのです。

#### 病院再建の基本理念「医療を通して地域に仕える」

病院長に就任した時、伝統の周産期部門、特に産科は賛育会病院の看板ともいえる代表診療部門であり、経営的にも病院を支える大黒柱でした。だから病院再建にあたっては、産科部門を変えずに一つの大きな柱に据えなければならないことは明白でした。ただ創立当時と違って今の時代、産科医療を提供することだけでは、組織存在の意義とはなりえません。

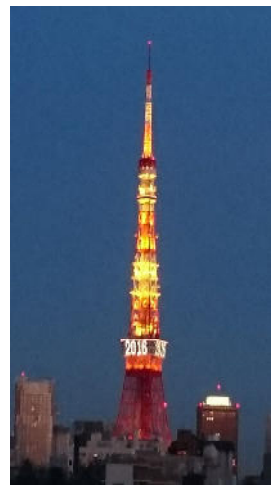
私が病院長に就任した時、「今の地域住民は、賛育会病院に何を求めているのか？ 私たちは、そのために何を提供すればよいのか？」を問われていると考えました。しかも、「資金が全くない状況での、経営の立て直し」という条件があるので、どのような柱を据えようとも、病院再建が決して容易ではないことは明らかでした。

#### 病院再建のための、三本の柱

熟慮した末、私は病院の存在意義を念頭に置き、再建のための3本の柱を立て、賛育会病院の進むべき方向を示しました。私が掲げたその3本の柱とは、周産期医療、地域医療、終末期医療でした。

周産期医療はすでに述べたように賛育会病院の看板でしたが、それでもいろいろと手を加えなければならないことがたくさんある事を私は感じていました。

一方、地域医療と終末期医療は、それまでの賛育会病院には全くなかった部門であり、したがって私はそれを具体的に示すプログラムを示して、職員を教育しなければなりません。しかしこれこそまさに、私が病院長になるまでの間に蓄えた力が役立つはずの医療分野であり、< 2 ページへ >



< 1ページより >

それが今の賛育会病院にとって再建の要となるはずだ、と私は固く信じていました。しかし、そのことを職員に理解してもらい、共通の目標に掲げるまでには、時間が必要でした。

その3本の柱に基づき、いま思えば実に多種多様な改革を行いました。たとえば新生児集中治療管理室 (NICU) の新設、新看護体制への移行、訪問看護ステーションの新設、緩和ケア病棟 (PCU) の開設などです。これらの改革はすべて診療報酬上の加算がついているので、病院経営にとって大きくプラスに作用するものでした。

### パリアンの創設理念

組織体の理念、目標を立てて職員に示すことの重要性は、ライフケアシステムのメディカルディレクターをしているとき、佐藤智先生から教えていただきました。そのことが賛育会病院長を拝命した時にも役立ったわけですが、2000年6月、賛育会病院長を辞し、パリアンを起こしたときにも、同じように役立ちました。

パリアンの理念は、「死にゆく患者、家族を在宅で

全人的にケアする」ことですが、その基本には、賛育会と同じ「隣人愛」があると考えています。助けを求めている隣人とは「死を目前に控えた患者とその家族」であり、行う愛の業こそ「ホスピスケア」だと考えています。

パリアンでは具体的な組織目標を3つ掲げていますが、その一つは「質を担保しつつ、提供できる量 (一人でも多くの患者にケアを届けること) を増やす」こと、二つ目は「時代の要請に応えるケアの提供を行う」こと、そして最後に「地域、社会を変えていく」ことです。

目標を立てるときのモットーは、「希望を天の星につなげよ (Hitch your wagon to a star)」という、

エマーソンの言葉です。

今年も目標を高く掲げ、天の星にその希望をつなげましょう。



## 患者さんから「ありがとう」の感謝の言葉

### パリアンからのクリスマスプレゼントに「びっくりぽん」

パリアンの手作りボランティア5人が9月からコツコツと縫い続けてきたクリスマスプレゼント (壁掛けタペストリー) が12月1日に完成し、ボランティアや看護師が手分けして患者さん宅に届けた。

予期せぬクリスマスプレゼントに患者さんは一様にびっくりするとともに「ありがとう」と感謝の言葉をいただいた。



袋詰めするボランティア

その感謝の言葉を紹介します。

Aさん「手の込んだものをいただき、ありがとうございます。」

Bさん「こんな素晴らしいプレゼントをいただき、ありがとうございます。この年になってプレゼントがいただけるなんて、感激です。」

Cさん「今年もここまで生きてこれたと、毎年感謝してプレゼントを飾っています。とても癒されています。今年は、(メッセージカードの)



患者さん宅に飾られている3年分のクリスマスプレゼント  
トナカイに感謝します。」

## 地域の患者さんと一緒にクリスマス会を開催

### 開かれたサロン・ド・パリアンへとまた一步前進



サロン・ド・パリアンのクリスマス会

今年のサロン・ド・パリアンのクリスマス会は12月25日、地域のがん患者さん、パリアンのがん患者さんやご遺族の9人が参加され、パリアンが目指している“開かれたサロン・ド・パリアン”の目標が少し達成できた。

クリスマス会は、パリアンスタッフのピアノ・チェロ・リコーダーの伴奏陣に患者さんのハーモニカが加わり「きよしこの夜」の合唱で始まった。サロン・ド・パリアンボランティアが作った食事やケーキを食べながら、参加者の皆さんの近況を含めた自己紹介や語りあいがあった。

スタッフによるハンドベル演奏で、クリスマス会の雰囲気がより一層高まった。「もろびとこぞりて」を合唱して終了する予定だったが、今日が誕生日という参加者がいらしたので、「Happy Birthday to You」の合唱でお祝いするというサプライズがあった。今後も、がん患者さん同士が交流したり、ほっとできる場として、地域に開かれたサロン・ド・パリアン (がんサロン) を続けていきたい。



## ボランティアグループ パリアンの紹介

### ボランティアグループパリアンとは

ボランティアグループパリアンは、ご家庭で最期の時を過ごしたいという末期がんや高齢の患者さんを医師・看護師・ケアマネジャー・ホームヘルパーなどの多職種とチームを組み、様々な活動をしています。

### パリアンボランティアになるためには

ボランティアになるためには、「ボランティア基礎講座」を受講して、ボランティア活動を行うための基本理念、知識を学んでいただき、ボランティア登録する必要があります。「ボランティア基礎講座」の開催は、フェイスブック等でお知らせしています。

## 活動内容

### ●訪問ボランティア

チームの依頼を受けて、患者さんとご家族の話し相手、買い物、調理、ご家族が不在の時の留守番、看護師のサポートなどを患者さん宅で行っています。訪問活動するための研修を受けたボランティアが訪問しています。

### ●サロン・ド・パリアン(がんサロン)

パリアンや地域のがん患者さんとそのご家族などをパリアンにお迎えして、医師、看護師、介護などのパリアンスタッフと一緒に食事をしながら語らいの場を提供します。



### ●命日カードボランティア

1年目の命日を迎えたご遺族に手書きのはがきを作成をし、郵送しています。1年経っても忘れてくれたと、感謝の手紙をいただいています。



### ●メモルの集い

患者さんを看取って1年目の遺族をパリアンにご招待し、故人を偲ぶとともに同じ境遇の遺族と

の語り合いの場を年2回提供しています。いつもお帰りの時の参加者の表情が明るくなることを感じます。



### ●手作りボランティア

夏やクリスマスのプレゼント、メモルの集い、姉妹ホスピスへの贈り物、介護用品などを作成しています。



### ●事務・聞き書きボランティア

パリアン通信の編集・作成、講演会やボランティア講座の計画・運営に関する事務作業を行ったり、チームの依頼を受けて、患者さんの話を聞き書き



手法により冊子にまとめ、患者さんに手渡す聞き書き活動を行っています。

### ●ボランティアの集い

知識やスキル等のレベルアップのための講座の開催や各ボランティアの活動報告をしたり、相互の親睦を図ったりするボランティアの集いを年4回開催しています。



## がん患者のケアマネジメントを考える研修会 1月30日開催

墨田区主催、都立墨東病院 ローカルコミュニティ墨東 看護編共催、NPO 法人すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会あこも企画・運営の研修会「がん患者のケアマネジメントを考える～病院と在宅医療・介護職とのよりよい連携のために～」が1月30日(土)9:30～12:30に墨田区役所13階131会議室において開催されます。NPO 法人あこもではパリアンのスタッフ数名も活動をしています。

研修会の内容はシンポジウムと意見交換で、シンポジウムではパリアンの川越厚先生も含め、都立病院の看護師やMSW、訪問看護師、ケアマネジャー、地域包括支援センターの社会福祉士が、がん患者のケアマネジメントで大事なこと、困っていることを本音で語ります！意見交換では参加者全員で話し合い、考えます。がん患者のケアマネジメントに関心がある方でしたら専門職はもちろん、一般の方もご参加できますので、がん患者のケアマネジメントの現状、課題、今後のあり方について知りたい、考えたい方はぜひご参加ください。詳しくはパリアン通信今号の最終ページのご案内をご覧ください。

## トピックス TOPIX とぴくす

### ●大和証券福祉財団のボランティア助成金受領



公益財団法人 大和証券福祉財団の平成27年度ボランティア活動助成の公募に、ボランティアグループパリアンが応募し、慎重かつ厳正な審査の結果、我々の活動が助成の対象にふさわしいと認められて、助成金が贈呈された。贈呈式は12月21日に行われた。

### ●厚先生、広島で在宅医療について講演

川越厚先生は平成27年12月5日、約400人が参加した広島県民文化センターで「在宅医療」知っていますか？最期まで家で療養したい人に」と題する講演を行った。講演の中で、在宅医療は、患者や家族が「家にいられることの喜びを感じる」ことが一番大事だということをお話された。

「家族の介護はどうすればよいか」という質問に対して、「がん患者については全力で、非がん患者は60%の力で介護すればよいのではないか」という回答に、質問者はほっとした様子だった。

●芝田さんの折紙、かわごえ小児科クリニックへ  
芝田葉子さんは、一昨年9月の開業した「かわごえ小児科クリニック」に、折り紙を折って定期的に届けている。開業当初は子供が大好きな“アンパンマン”のシリーズだったが、最近は“妖怪ウォッチ”までキャラクターを広げている。

インフルエンザ予防注射で泣いている子供たちにきっと喜ばれることだろう。

芝田さんがアレンジした花の



芝田さんが折った折り紙

写真を、このパリアン通信の“ボランティア活動予定”の欄で毎月掲載させてもらっている。

## パリアン・スタッフの講演・発表予定(1月～2月確定分)

講演者	開催日	講演会等	演 題	会 場
川越 厚	1月23日	南部町在宅医療講演会	緩和ケアの原点～ホスピスケアの心～	南部町文化ホール (山梨県南巨摩郡)
川越 厚	2月14日	岡山県在宅医療連携拠点事業 第4回市民公開講座 在宅医療講演会	ひとり暮らしは明日のわが身～さいごまで家での暮らしをつらぬく方法～	アクティブライフ井原 (岡山県井原市)
本田晶子	2月21日	日本がん看護学会 学術集会	研究発表「独居がん事例にみる在宅ホスピスケアの実態と訪問看護師の役割」	幕張メッセ・ホテルニューオータニ幕張

パリアンのフェイスブック (<https://www.facebook.com/hospice.pallium>) でも講演予定を随時ご紹介しています。

## 1月のボランティア活動予定

- ・ボランティアリーダー会：1月16日(土) 午前10時30分～12時
- ・訪問ボランティア：(訪問計画ミティング) 1月16日(土) 午後1時～(活動日) 1月5日、12日、18日、21日、25日
- ・サロン・ド・パリアン：1月8日、15日、22日、29日
- ・手作りボランティア：(活動日変更) 毎月第1月曜日午後1時～1月は休み、2月1日午後1時～
- ・事務&聞き書きボランティア：1月23日(土) 午後1時～



1月の花(芝田さん提供)

## 編集後記

「一年の計は元旦にあり」とは計画は早めにしっかりと立てるべきだという戒めで、物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということだそう◆中国の伝統的な年中行事・儀式・しきたりなどを解説した本、「月令広義」の中の四計に「一日の計は晨(あした)にあり、一年の計は春(正月の意)にあり」とあるのに基づいているという。◆戦国の武将・毛利元就は元三(がんさん：年・月・日の三つの元(はじめ)、元旦のこと)の儀式を大切にしている、「何事も始めが肝心だ」という言葉から由来するものだともいう◆ボランティアグループ・パリアンは2001年に誕生して、パリアンの理念およびボランティア精神のもとで、在宅ホスピスケアのチームの一員として活動して今年で15年を迎える。その節目の年の初めに、パリアンが掲げる目標達成のためにボランティアグループとしての活動計画を作る必要がある。特に、「地域、社会を変えていく」という目標に対しては、長期的ビジョンと地道な活動が求められると思うが、その第一歩を踏み出していきたいものである (I.E)



# がん患者の ケアマネジメントを 考える

～病院と在宅医療・介護職との  
よりよい連携のために～

■日時 平成28年 1月30日(土) 9:30～12:30

■会場 墨田区役所13階 131会議室 (墨田区吾妻橋1-23-20)  
(区役所1階夜間休日入口(隅田川側)からお入りください)

## ■プログラム

### 1. シンポジウム

「現場が本音で語る! がん患者のケアマネジメントで大事なこと、困っていること」

菅田百合子 (東京都立墨東病院 外科病棟 看護師)

栗尾 公子 (東京都立墨東病院 がん相談支援センター ソーシャルワーカー)

川越 厚 (医療法人社団パリアン クリニック川越 院長)

竹崎 恵子 (訪問看護ステーションすぴか 所長)

山井 高志 (あいけあ ケアマネジャー)

斎藤 ゆかり (こうめ高齢者支援総合センター 社会福祉士)

### 2. 意見交換

参加者全員で、がん患者のケアマネジメントの現状、課題、今後のあり方について考えます。  
この機会に、うまくいった経験、日ごろ困っていること、疑問に思っていることなどを本音で  
投げかけてください。すみだ版「在宅緩和ケアマネジメントモデル」の土台作りを目指します。

■対象 がん患者のケアマネジメントに関心がある方 ※一般の方もご参加できます

■参加費 無料

■お申込 氏名(複数可)、所属または居住区、職業、代表者電話・FAX番号をお書きの上、  
下記申し込み先へメールまたはFAXにてお申込みください。

※定員(40名)に達しましたら締め切らせていただきます。

■お申込・お問合せ先

NPO法人すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会あこも 事務局

e-mail : s-sumida@pallium.co.jp / FAX: 03-5669-8310 / TEL: 03-5669-8302

FAX : 03-5669-8310

平成27年度墨田区在宅緩和ケア事業 研修会  
がん患者のケアマネジメントを考える

## FAX用 申込み用紙

お名前	ご所属 または 居住区	ご職業
(代表者)		
申込代表者 連絡先	TEL番号 :       —       — FAX番号 :       —       —	

※お送りいただいた個人情報は、当事業関係のみに使用させていただきます。

### 会場のご案内



#### 墨田区役所 13階 131会議室

※区役所1階夜間休日入口(隅田川側)からお入りください

〈最寄駅〉浅草駅、本所吾妻橋駅から徒歩約5分  
〈最寄バス停〉「墨田区役所」「本所吾妻橋」  
「リバーピア吾妻橋」